



平成29年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成29年2月8日

上場会社名 川崎化成工業株式会社 上場取引所 東
 コード番号 4117 URL http://www.kk-chem.co.jp/
 代表者 (役職名) 取締役社長 (氏名) 中川 淳一
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 経営管理部門長 (氏名) 大坪 孝幸 (TEL) 044-540-0110
 四半期報告書提出予定日 平成29年2月8日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年3月期第3四半期の連結業績(平成28年4月1日～平成28年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第3四半期	10,127	△17.7	△33	—	37	△80.0	20	△85.7
28年3月期第3四半期	12,298	△15.5	118	△40.5	186	△31.1	144	△36.9

(注) 包括利益 29年3月期第3四半期 170百万円(4.0%) 28年3月期第3四半期 163百万円(△56.4%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年3月期第3四半期	0.54	—
28年3月期第3四半期	3.73	—

(注) 28年3月期第3四半期の経常利益は、表示方法の変更に伴い遡及修正を行っております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
29年3月期第3四半期	18,820	13,750	73.1
28年3月期	20,096	13,697	68.2

(参考) 自己資本 29年3月期第3四半期 13,750百万円 28年3月期 13,697百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年3月期	—	0.00	—	3.00	3.00
29年3月期	—	0.00	—		
29年3月期(予想)				3.00	3.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成29年3月期の連結業績予想(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	13,900	△11.0	40	30.3	135	4.2	95	△21.7	2.46

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
 新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	29年3月期3Q	41,207,730株	28年3月期	41,207,730株
② 期末自己株式数	29年3月期3Q	2,520,452株	28年3月期	2,512,832株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	29年3月期3Q	38,692,297株	28年3月期3Q	38,702,083株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外ではありますが、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続は終了しております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における日本経済は、雇用・所得環境の改善等により景気は緩やかな回復基調が続いているものの、中国を始めとするアジア新興国や資源国等の景気減速、米国の新政権への移行及び英国のEU離脱問題等による海外経済の不確実性の高まりや金融資本市場の変動等、先行き不透明感が増しております。

このような状況下、当社グループは新たな中期経営計画を4月からスタートさせ、収益力の高い「機能化学品の川崎化成」の確立を目指し、生・販・研が一体となって汎用化学品事業の基盤強化と機能化学品事業の拡大に向けた事業活動に取り組むと共に、新中期経営計画の実現を支えるエア・ウォーターグループとのシナジー効果の発現についても、グループ各社との連携により着実に成果を積み重ねております。

当第3四半期連結累計期間における経営成績は、売上高の大部分を占める化学品事業において、原油価格及び為替の影響による石油系製品の製品価格の下落並びに前年度に特需があった農薬原体アセキノシルの販売平準化及び可塑剤等の数量減により、売上高は10,127百万円（前年同期比2,171百万円減収・17.7%減）となりました。

損益面では、原油価格の下落及び円高に伴うコストダウン並びに固定費削減等の効果はあったものの、上記農薬原体アセキノシルの減販及び無水フタル酸の販売時期ずれや設備トラブルに伴う減産の影響が大きく、営業損益は33百万円の営業損失（前年同期は118百万円の営業利益）、経常利益は37百万円（前年同期比149百万円減益・80.0%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は20百万円（前年同期比123百万円減益・85.7%減）となりました。なお、通期では特にキノン系製品及びマキシモール[®]に代表される機能化学品の販売数量の増加が寄与し、損益面では前期を若干上回る見通しであり、当社が目指す「機能化学品の川崎化成」の確立に向けた取り組みについては着実に進展しております。

これを事業別に見ますと次のとおりであります。

① 化学品事業

・ 有機酸製品

無水フタル酸は、輸出の減少及び原料価格の下落に応じた価格対応により大幅な減収となりましたが、販売時期ずれによる減販は当期中に回復する見込みであります。

その他の有機酸につきましては、コハク酸及びフマル酸は販売数量の減少及び原料価格の下落に応じた価格対応により減収となりましたが、ソーダ製品の生産効率改善等により増益となりました。

・ 有機酸系誘導品

有機酸系誘導品につきましては、可塑剤は数量の減少及び原料価格の下落に応じた価格対応により大幅な減収となりました。マキシモール[®]は、原料価格の下落に応じた価格対応を行いました、販売数量の増加により前年同期並の売上となりました。

・ キノン系製品

ナフトキノンは、販売数量の減少により若干の減収となりましたが、通期では前年度を上回る見込みであります。農薬原体アセキノシルは、販売数量の平準化により大幅な減収となり、通期でも前年度を下回る見込みであります。パルプ蒸解助剤SAQ[®]は、前年同期並の売上となりましたが、通期では前年度を上回る見込みであります。アントラキノンは、販売数量の減少に加え円高の影響もあり大幅な減収となりました。脱硫触媒NQS[®]は、販売数量の増加により増収となりました。

以上の結果、化学品事業全体としての売上高は10,047百万円（前年同期比2,176百万円減収・17.8%減）、営業損益は45百万円の営業損失（前年同期は114百万円の営業利益）となりました。

② その他の事業

その他の事業につきましては、地域支援サービス事業の拡大により売上高は79百万円（前年同期比5百万円増収・7.1%増）、営業損益は10百万円の営業利益（前年同期比8百万円増益・350.2%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産は18,820百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,275百万円減少いたしました。

流動資産は、主に受取手形及び売掛金は増加しましたが、有価証券、商品及び製品並びに短期貸付金の減少により、前連結会計年度末に比べ1,468百万円減少し、8,172百万円となりました。

固定資産は、主に設備投資による有形固定資産の増加並びに保有株式の時価評価に伴う投資有価証券の増加により、前連結会計年度末に比べ193百万円増加し、10,648百万円となりました。

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は5,070百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,328百万円減少いたしました。

流動負債は、主に支払手形及び買掛金の減少により、前連結会計年度末に比べ562百万円減少し、2,981百万円となりました。

固定負債は、主に退職給付に係る負債の減少により、前連結会計年度末に比べ766百万円減少し、2,088百万円となりました。

当第3四半期連結会計期間末における純資産は13,750百万円となり、前連結会計年度末に比べ52百万円増加いたしました。

株主資本は、主に配当金の支払により、前連結会計年度末に比べ96百万円減少し、10,119百万円となりました。

その他の包括利益累計額は、主に保有株式の時価評価に伴うその他有価証券評価差額金の増加により、前連結会計年度末に比べ149百万円増加し、3,631百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

第3四半期累計期間の業績は前年同期に比べ大幅な減益となりましたが、通期では前期を若干上回り、ほぼ業績予想値並となる見込みであります。

従いまして通期業績予想につきましては、平成28年9月28日に公表している業績予想値からの修正はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
該当事項はありません。
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用
該当事項はありません。
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	267	192
受取手形及び売掛金	3,910	4,401
有価証券	700	-
商品及び製品	1,796	1,384
仕掛品	114	240
原材料及び貯蔵品	379	395
短期貸付金	2,350	1,265
その他	121	291
流動資産合計	9,641	8,172
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,754	1,705
機械装置及び運搬具(純額)	1,845	1,724
土地	5,862	5,862
その他(純額)	167	385
有形固定資産合計	9,630	9,677
無形固定資産	78	47
投資その他の資産	747	923
固定資産合計	10,455	10,648
資産合計	20,096	18,820
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,097	1,571
未払法人税等	17	24
賞与引当金	173	69
修繕引当金	74	126
その他	1,179	1,190
流動負債合計	3,543	2,981
固定負債		
リース債務	38	29
再評価に係る繰延税金負債	1,464	1,464
繰延税金負債	152	203
役員退職慰労引当金	65	23
退職給付に係る負債	898	129
資産除去債務	235	236
固定負債合計	2,855	2,088
負債合計	6,398	5,070

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,282	6,282
資本剰余金	2,549	2,549
利益剰余金	1,788	1,693
自己株式	△404	△405
株主資本合計	10,216	10,119
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	302	422
土地再評価差額金	3,321	3,321
退職給付に係る調整累計額	△142	△113
その他の包括利益累計額合計	3,481	3,631
純資産合計	13,697	13,750
負債純資産合計	20,096	18,820

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
売上高	12,298	10,127
売上原価	10,660	8,618
売上総利益	1,638	1,508
販売費及び一般管理費	1,519	1,542
営業利益又は営業損失(△)	118	△33
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	23	26
固定資産賃貸料	40	40
その他	5	4
営業外収益合計	70	72
営業外費用		
支払利息	1	0
その他	1	0
営業外費用合計	2	0
経常利益	186	37
特別損失		
固定資産除却損	34	13
特別損失合計	34	13
税金等調整前四半期純利益	151	23
法人税、住民税及び事業税	8	4
法人税等調整額	△1	△1
法人税等合計	7	3
四半期純利益	144	20
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	144	20

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
四半期純利益	144	20
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	3	120
退職給付に係る調整額	15	29
その他の包括利益合計	19	149
四半期包括利益	163	170
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	163	170
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結 財務諸表計上額 (注)2
	化学品事業	その他の事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	12,224	74	12,298	—	12,298
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	81	81	△81	—
計	12,224	156	12,380	△81	12,298
セグメント利益	114	2	117	1	118

(注) 1. セグメント利益の調整額1百万円は、グループ内設備取引に係る未実現利益実現等によるものであります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結 財務諸表計上額 (注)2
	化学品事業	その他の事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	10,047	79	10,127	—	10,127
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	82	82	△82	—
計	10,047	162	10,209	△82	10,127
セグメント利益又は損失(△)	△45	10	△34	0	△33

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額0百万円は、グループ内設備取引に係る未実現利益実現等によるものであります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。